HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	伝統宗教か？地域か？ ： JGSS-2010による伝統宗教・地域・社会活動参加の関連の分析
Author(s)	寺沢, 重法
Relation	2014年度「宗教と社会貢献」研究会第1回研究会報告資料（2014年7月13日、國學院大學渋谷キャンパス、口頭発表）
Issue Date	2014
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/56632
Type	conference presentation
File Information	terazawa2014072801.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

伝統宗教か？地域か？
――JGSS-2010 による伝統宗教・地域・社会活動参加の関連の分析――

2014 年度「宗教と社会貢献」研究会第 1 回研究会
（2014 年 7 月 13 日、國學院大學渋谷キャンパス）

北海道大学大学院文学研究科人間システム科学専攻社会システム科学講座
助教　寺沢　重法
shterazawa@let.hokudai.ac.jp

【報告要旨】

【目的】本発表では現代日本において伝統宗教と社会活動参加の間の正の関連は、地域的要因による疑似相関に過ぎないのか、それとも伝統宗教と社会活動参加の間に独自の関連があるものなのかを検証する。**【背景】**近年、質的研究／量的研究ともに、現代日本において伝統宗教の信者・伝統宗教的な意識をもつ人は社会活動に参加する傾向にあることが明らかにされている。しかしながら社会活動参加に大きな関連をもつのは地域的要因（地域組織への参加など）であることも指摘されており、伝統宗教特有の氏子集団・門徒集団などは実質的に地域的集団と大きく重なっていることも指摘されている。寺院・神社などにおける社会活動の多くも地域との密接なつながりの中で実施されている場合が少なくない。したがって、仮に伝統宗教と社会活動参加の間に正の関連が見出したとしても、それが伝統宗教に熱心な人は地域の活動に熱心な地元層として積極的に社会活動に参加しているのであって、地域的要因ことが真の要因ではないかという指摘がなされていた。従来のデータでは宗教変数と社会活動変数に加え詳細な地域変数を組み込んだデータセットが存在しなかった。しかし近年公開された JGSS-2010 にはこれら三つが揃っているため、分析を行うことにした。**【方法】**JGSS-2010 を使用した。従属変数はボランティア活動数、独立変数は伝統宗教、地域的変数、コントロール変数は社会―人口学的変数と様々な社会意識変数を用いた。負の二項回帰分析を用いた。**【結果】**地域的変数を投入しても、伝統宗教は依然として、社会活動参加に対して正の有意な関連を示していた。**【結論】**伝統宗教と社会活動参加の間の正の相関は地域的要因の疑似相関に過ぎないという説は必ずしも当たっていない。むしろ地域的要因には還元できない独自の関連が伝統宗教にはある可能性が確認された。この結果は現代日本において社会活動参加を見る上で、伝統宗教の存在が大きな意味を持っていることをより明確に確認できたものだと思われる。

【付記】データの分析にあたり、東京大学社会科学研究所付属日本社会研究情報センターSSJ データアーカイブから、データセットの提供を受けた。日本版 General Social Surveys（JGSS）は、大阪商業大学 JGSS 研究センター（文部科学大臣認定日本版総合的社会調査共同研究拠点）が、東京大学社会科学研究所の協力を受けて実施している研究プロジェクトである。本研究は日本学術振興会科学研究費（若手研究 B)「台湾における宗教と利他主義に関する社会学的研究」（研究代表者 : 寺沢重法）および日本学術振興会科学研究費（基盤研究 B）「東アジアにおける宗教多元化と宗教政策の比較社会学的研究」（研究代表者：櫻井義秀）の一貫として行われたものである。